

2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 34 節 vs. ヴァンラーレ八戸

11/4 (土) 15:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



2023 J3 ■順位表 ■第33節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	愛媛	64p	+12	53	41	A●	H△
2	鹿児島	57p	+18	53	35	HO	A●
3	富山	53p	+5	48	43	HO	A△
4	今治	50p	+11	45	34	H△	AO
5	FC大阪	49p	+10	37	27	H●	A△
6	松本	49p	+6	49	43	H△	A△
7	鳥取	48p	+4	48	44	AO	HO
8	沼津	48p	+4	44	40	A△	HO
9	YS横浜	48p	-1	44	45	H●	A●
10	奈良	47p	+10	38	28	A●	H●
11	岩手	46p	+2	43	41	H△	
12	八戸	46p	+1	41	40	A●	
13	岐阜	45p	+7	38	31	---	---
14	長野	41p	-10	41	51	H△	AO
15	讃岐	40p	-14	25	39	AO	
16	福島	39p	-8	30	38	AO	H●
17	琉球	39p	-16	38	54	HO	
18	宮崎	34p	-15	24	39	A●	H△
19	相模原	33p	-10	35	45	HO	A△
20	北九州	24p	-16	23	39	A△	

次回HomeGame

第35節 vs. カマタマーレ讃岐

11/12 (日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00
※売り切れ次第、終了です
火、水、金、土 (祝日除く) 営業
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★ アミカ

ドミー
イン

JR
岐阜駅

today's guest : ヴァンラーレ八戸

2022 J3 14勝 1分19敗 勝ち点43:10位

直近の対決と結果

2023/03/26
J3 - 4 節 @ プラスタ

八戸 1-0 岐阜

ここ 3 試合の公式戦の結果

FC岐阜	ヴァンラーレ八戸
2023/10/29 J3 - 33節 @ 富山 富山 1-1 岐阜	2023/10/29 J3 - 33節 @ プラスタ 八戸 2-2 讃岐
2023/10/22 J3 - 32節 @ 長良川 岐阜 1-3 奈良	2023/10/22 J3 - 32節 @ とうスタ 福島 1-3 八戸
2023/10/15 J3 - 31節 @ 花園 FC大阪 1-1 岐阜	2023/10/14 J3 - 31節 @ プラスタ 八戸 2-1 鹿児島

●2023年J3リーグ、ラスト10試合に突入した10月期に勝ちきれないFC岐阜。10/22(日)第32節・ホーム奈良戦は、試合開始わずか2分で先制点を奪われ、前半36分には追加点を許し、そして前半42分には#14生地慶充が退場。圧倒的に不利な状況での後半58分に、#9山内寛史のヘッドで1点を返す岐阜だったが、反撃はここまで。逆に後半84分に追加点を許してしまい、1-3で力尽きた。続く10/29(日)アウェイ富山戦も、岐阜がスタメンを5人入れ替えた影響もあって、試合開始から富山に主導権を握られる展開に。岐阜の守備陣が我慢する時間が続いたが、前半36分に失点してしまう。後半開始から2枚替えをしてテコ入れを図った岐阜だったが、盛り返すことができない。しかし、このまま終わるかと思われた後半A.T、#7村田透馬のミドルシュートが決まって同点に。このまま試合は終了し、1-1。土壇場で勝点1を持ち帰ることができた。

さて、この2試合の成績が1分1敗だったFC岐阜の順位は、10位から13位に降下。そして、首位・愛媛が連勝して勝点を64に伸ばして岐阜との勝点差が19と離れたため、岐阜が今季優勝する可能性は完全に消滅した。2位(=J2昇格圏)・鹿児島も連勝して勝点57、岐阜との勝点差は12。鹿児島の1試合あたりの勝点が現時点で1.72で最終節の予想勝点は65.63。今季J3の残り5試合を全勝したとしても、FC岐阜が積み上げることのできる勝点は60。非常に残念な現実ではあるが、今季のJ2昇格の可能性はほとんど消えたと言っても過言ではないだろう。だが、だからといって、今季の残り5試合が無意味になる訳ではないはずだ。リーグ戦の毎試合を最後まで全力で戦い抜くこと、ひとつでも多くの勝利を、ひとつでも上の順位を目指すこと、その姿勢をクラブを応援する地域の人々に示すことは、プロサッカークラブとして重要な目的であり、目標のはずだ。そして、クラブ方針では、今季は“基礎固めの1年”という位置づけがされていたはずであり、既に来季のチーム作りが始まったと見ることもできるはずだ。今季の残り5試合、勝利を目指しつつも若手選手の育成のための、上野監督の選手起用や采配に期待したい。

さて、今節の対戦相手は、ヴァンラーレ八戸だ。昨季は10位に終わったため、今季は“Jリーグ通算最多指揮・最多勝利”の記録を持つ石崎信弘氏を監督に招へい。今季もあまり成績は上向きではないが、それでも直近5試合の成績は2勝2分1敗・9得点7失点で12位。一方の岐阜は直近5試合で1勝2分2敗・5得点7失点で13位。気を引き締めて臨まなければならないチームだ。

八戸との通算対戦成績は、岐阜の2勝2分3敗・5得点6失点と相性が悪く、負け越している。昨季のホーム戦・6/5(日)第11節は、互いに決定機を迎えるも決めきれずに0-0で引き分け。そして今季対戦のアウェイ戦3/26(日)第4節では、0-1で敗戦。この試合では、なんとしても勝利を手にして“シーズンダブル”を阻止しなくてはならない。

八戸で最も警戒すべき選手には、9ゴールの#17妹尾直哉を挙げる。主に後半から投入される“ジョーカー”的な起用方法で結果を出し、2試合連続ゴール中だ。また、夏季に徳島から期限付き移籍で加入したナイジェリア人FW#90オリオラ・サンデーは、直近5試合で2ゴールと、ようやくチームに馴染んできた感があり、こちらも要注意だ。一方の岐阜では、八戸の石崎監督が宮崎の監督だった時期に指導を受けた(2017~2018年) #11藤岡浩介が、かつての恩師の前でゴールを決める姿に期待したい。なお、2021年に松本から期限付き移籍で岐阜に在籍し、今季から八戸に加入した#18三ツ田啓希は今季は出場が無く、残念ながら“凱旋”は難しそうだ。

急激に季節が移り変わり、冬の訪れを感じさせるが、我々FC岐阜サポーターの心は、まだまだ熱く保ち続けよう。そして今節も、最後まで勝利のため、戦い続け走り続ける岐阜の選手たちの背中を最後まで後押しする応援をしよう。そうやって掴み獲った勝利は、必ずや次の結果へと繋がっていくはずだ。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第32節】岐阜 1-3 奈良

●希望は潰えた。立ち上がりの入りが悪すぎたのが全て。奈良はキックオフと同時に競馬で例えると出ムチを入れられた馬のように、一気に早いドリブルとパス回しで岐阜陣内に攻め込んできた。岐阜はその対応に手こずり、やっとのことでCKに逃れたものの、直後のCKをニアで合わせられて早々に失点。

あとはもう試合のほとんどは奈良のペースであったと言っていいだろう。岐阜は1点返したものの、直後に決定的な3点目を喫してしまい試合を決められてしまった。

残りの試合、これまで積み上げてきたものとこれから積み上げていくもの、それを来季に向けてどう生かしていくかが重要になってくる。決して淡々と消化していったらならない。クラブも補強すべきポイントを的確に分析して、早めに編成に取り掛かってもらいたい。

また、今まで出場機会に恵まれなかった選手にもチャンスが巡ってくる可能性は十分にある。今まで以上にアピールして、レギュラーを奪うくらいの奮起を望みたい。

もう現有メンバーで戦えるのも残り僅か。少しでもいい形で終われるのを願うのみである。

(岐阜の誇り)

●10月も半ばを過ぎてのナイター開催。「これは真夏にデーゲーム開催だった奈良への『ナイター開催のお手本』を見せるためかな？(苦笑)」とやせ我慢をしていた僕でしたが、試合開始直後から、身も心も冷え切ってしまいました(溜息)。キックオフ直後にCKを与えてしまい、あっという間に先制点を許すという、最悪の展開。あのですね、#14中島賢星のFKは要注意だってのは、僕ら岐阜サポは知ってますし、当然チーム全体で共通認識してたはずですよ？勝たなければ後が無い試合だということに、なんだか入りの選手たちの動きがフワフワするように見えて。まさかとは思いますが、ビッグフラッグ見て感動して試合開始前に気持ちが変な風に高揚したとか無いですよ？そして、得点を奪うためにフォアプレスでボール奪取にいかとうとする前線の選手と、後ろに引いて守ろうとする中盤との間が空いてしまって、そこを使われてしまう展開に。フィジカルでも足下のプレーの正確さでも、残念ながら奈良の選手の方が上回ることが多くて、セカンドボールが拾えない。それでも、徐々に岐阜がボールを保持しつつ相手を押し込むようになってきたかと思ったら、奈良のカウンター一閃、そして失点。んで、なんであれだけ左サイドがガラ空きになってたの？それをカバーするために選手たちがスライドしたところで、今度は空いた右サイドに振られて。DAZNをチェックしたら実況アナが『誰もいないっ！』って2度叫んでたけど、今季ワーストで崩された失点シーンだったように思えます。僕も呆然としました。猛省して下さい。

んで、あの“揺りかごダンス”、僕は中継カメラに向かってやっていると気付いたけれど、ウチのゴール前でやるか普通？(苦笑)それにしても、#14中島賢星のスルーパスが致命的だった。なんかウチに居た時より上手くなってないですか(溜息)。んで、前半42分には#14生地が退場に。ええ、間違いなく「決定的な得点機会の阻止(DOGSO)」ですので1発レッドです。でも、それは#14おいちゃん1人の責任ではなく、左サイドで誰もボールを奪えずに運ばれて決定的なスルーパスを出されたチーム全体の責任と言っても良いレベルだと思います。猛省して下さい。後半開始から#8窪田稜を投入すると、ようやく岐阜の攻撃も活性化され、後半58分に#8窪田のクロス→#9山内寛史のヘッドで1点を返す。そこまではいい。だけど、その後の交代は僕には疑問でしかなくて。何度も書いてる気がしますが、#10庄司と#42柏木のダブルボランチで機能した試合があるのか？ってぐらいに役割がカブリ過ぎて、バランスが悪いと僕は思っています(溜息)。まあ後半78分にPA内で#7透馬と#45チャーが相次いで倒された場面を演出した#42柏木のプレーは流石だと思いましたが。

ちなみに、どちらともPK相当と僕は思いましたし上野監督の激怒も理解できますが、それも含めてJ3、サッカーでするので……。ここで息切れしてしまったのか、後半84分にフォアプレスで#39遠藤元一がボールを奪われて、失点……(溜息)。そりゃ、かなりの部分は#39遠藤のミスだけけど、DFラインでボール回してたら、こういうミスは起きるものだと思う。そして“他人任せ”でパスを貰うために動いてない選手が多いことも、あのプレーが起きてしまった要因だと僕は思う。猛省して下さい。

かくして、ぐうの音も出ないまでにホーム戦で完敗。残念ながら、ほぼこの敗戦で今季の昇格の芽は消えた。逆に、これだけボコボコにやられたので、綺麗さっぱり諦めがつく感覚すらあります(苦笑)。まあ今季は“必要以上に勝敗の結果だけを追い求めない”チームづくりをすると、たしか小松社長が言われてたはずなので、来季に向けたチームづくりを速やかに進めて欲しいと思います。まあ、ホーム戦では勝利を追求して欲しい気持ちもありますが、アウェイ戦では積極的に若手選手を起用して、経験を積ませて欲しいと思います。そういう積み上げが、来季に繋がるんじゃないかと思います。(ささたく)

●編集長の代打で久しぶり(何年ぶりだろ?)の岐大通配布。指が滑りまくりでスムーズな配布には程遠く。一刻も早く席を確保されたかったであろう方々にはご迷惑をおかけしました。

試合の結果はご承知の通り。何の言い訳も出来ないぐらいにスッパリと斬って捨てられた。自分の中では、「勝たなきゃ降格」という試合で0-7と木っ端微塵にされた徳島戦と同じような思いが残る。実に見事な引導を渡されました。

イーブンでも厳しいなあ……と思ってた中で、赤紙をもらったのが減点なのは間違いない。でも、だからといって、オイちゃんが戦犯というワケじゃない。彼はカラダを張って3点目を防いだけ。前に出られて、やむなく『一か八か』の行為におよんだのがバチに出ただけ。もちろん、赤紙には異論もない。ただ、ああいう場面を作られたのが原因というだけ。少なくとも、追加点を取られなかった。決して、褒められるプレーではないが、「悪かったね。責任取らせちゃって。」という気持ちはある。繰り返すけど、問題は、なぜ、2失点目と同じような場面を作らせてしまったのか？に尽きる。両サイドとも『偽SB』ってのはキツすぎるよね。「ご自由にどうぞ。」だったような気がするよ？>左サイド

それから、目を引いたのが奈良の前プレ。ソレをなんとも出来ずに横パスしか出来ずにズルズルと。プレスの掛け方とそのフォロー。対戦相手は勉強になったんじゃないかな？それとも、勉強になったのは対峙した最終ラインだけで、『掛ける立場』の面々には響かなかったかな？だとしたら、困るよなあ。この試合が、今季初めての2点差以上離れた敗戦とか。昇格、あるいは残留争いの渦中ならば得失点差は重要だけど、5割ぐらいの成績ではね。なんの意味もなさないよ。でも、無得点じゃなかったコトには意義はあるね。ヒロフミとリョウには感謝します。

さて、次節はアウェイ富山。以前、この紙面で「せめて、アウェイの富山戦までは希望を……。」と書いた覚えがある。自ら、フラグ回収してしまった感満載。こういう状況になったらやるコトはひとつ。富山に対するイヤガラセ、だ(笑)ウチや長野の橙や緑に加え、金沢が戻ってくるんだよ？来季もいっしょにやろうぜ、と言いたいね。もちろん、勝った上での話だが。どこまで意地を見せてくれるかな？期待してますよ？選手の皆さん。

(ぐん)

【第33節】富山1-1 岐阜

●膝に手をつき、ゼイゼイと肩で息をしながら、「今日はコレくらいにしといたらあ！」とでも言ってるような状況が浮かんでくる。なんだか、そんな感じの試合。とりあえず、負けなくてよかった。

スタメンは大きく変更。オイちゃんは一発退場で留守番。ウガは累積か？と思ったけど、前節で警告をもらったような記憶がない。ベンチにもいないとなるとケガなのか？モギシューは、どうやら、前節のケガの影響。今季中に戻って来られるんだろうか？チョルファンはともかく、両SBが本職ではない。潔く3バック・・・というワケにもいかないのかな？

端的に言えば「まあ、よく1点で……。」という前半。諸般の事情により、「勝ったら笛と同時、負けたら選手の挨拶まで見届けようか。」と思ってたけど、早々に「引き分けだったら撤収。」に切り替えざるを得なかった（苦笑）。それでも、敗色濃厚なATにトーマのミドル炸裂に立ち上がって快哉を叫ぶ自分。向こうの選手が何人も倒れ伏したのを見て、「スマンな、来季もよろしく。」と思ったまではよかったんだが、その後もいっとうに締まらない。ボクは引き分けで十分だけど、選手がそう思ってたんだったらツマンナイな。目標を達成するためには同点じゃダメなのに、なんだか、チグハグな感じに見えてしまったよ。長良川ではそんなコトないように願いたい。頼んだよ。

(ぐん)

埋め草です。(笑)

●ぼくは奈良戦も富山戦も現地に行っていない（ホーム戦の欠席は久しぶり）ので、映像だけからの感想になってしまいます。ごめんなさい。

奈良戦は2失点目がすべてだったかなあ。1失点目、ああいう最初のセットプレーでガツンとやられてしまう例は岐阜に限らずありますからね。3失点目も、そりゃCBの錯和（ちゃんぼ）だとも言えるけど、1人少ないんだから出し先だって減るわけだし。でも、2失点目は、えーと。左SBの（ファールを取ってもらえないと寝転がってジタバタすることで有名な）ベテランは、「Youはなににしに中央へ？」って感じで自分の持ち場を全開放。そりゃJ3の選手でもゴール正面へ通せるでしょ。ほぼ唯一の希望は、ヤマヒロがちゃんと結果を出していること。つくづく、独りよがりの攻撃しか出来ないFW（複数）の代わりに彼を出せていたら……と。

富山戦は、よく追いつきました。でも、富山は「勝ちたい」というより「逃げ切りたい」という思いが強過ぎて、すんごい引いてましたね。守備陣の全員が下がり過ぎ。だから、あそこでトーマがフリーでコントロールミドルを放てた。同点ゴールが決まった時の富山の選手たち、見憶えがあるなあ……と思ったら、アレだ。『ドーハの悲劇』だ。ぼくらは見事にイラク代表の役を演じた、のかしら。

残り5試合で昇格圏と勝ち点12差。11チームを抜かなきゃならない。そりゃ無理でしょ。というか、ダメダメな戦績だった昨季は33節終了で14位（13位と同勝ち点）。今季も13位。そりゃ昨季は33節終了で6つの負け越し、今季は1つの勝ち越しだ。

今季は順位表の真ん中あたりが大混戦。岐阜から勝ち点4だけ下には長野しかいないけど、勝ち点4だけ上には8チームもある。とりあえず、今季はそこを越えるのが目標になるかな。来季から始まる（と発表されている）『J2昇格プレーオフ』圏内に入れるか。そのあたりのシミュレーションといきましようか。

(吉田鑄造)

柏木陽介、引退。

●帰りのホームで電車を待つ間に開いたスマホに、いきなり反応してきたのがクラブの公式LINE。「陽介、引退！？」一瞬、固まりかけたが、彼のコメントを読み終えた後には思ったほどの衝撃はなく、逆に「遂に来たか……」という諦観みたいなモノが広がっていた。今季、彼のプレー時間が長ければ長いほど「あー、たぶん、そういうつもりじゃないんだろうなあ。」と感じるコトがあり、ど素人の自分がそう思うんだから、彼自身にはもっと忸怩たるモノがあったんだろう。邪推にしか過ぎないけれど。

彼が42番を選んでくれたおかげで、今の岐阜県の市町村の数を知ることができた。（『平成の大合併』前の99からアップデートができてなかった。）ソレだけではなく、本当に心底から岐阜県と向き合ってくれたコトには、ただ、ただ、感謝するしかない。とある集いで伺った彼の話が心に残っている。とてもアツくて、心が踊るような話だった。それ以外にも、彼の手術を担当した先生には自分もお世話になっていて、勝手に縁を感じたり、親近感をもったりもしている（苦笑）。

以前、この紙面に書いたが、15周年企画の【ベスト11】に彼が選出されたコトには、今でも腑に落ちてはいない。『今まで』じゃない、『今から』だろ？記憶に残るシーンを積み重ねてくれるのは、と。それでも、彼は、やっぱり『別格』だった。そういう想いは間違いなく、自分の中にある。ただ、コレだけは言っておきたい。「岐阜の未来は、まだ、築かれてないでしょう？」と。我々は、未だ道半ば。残念ながら、ピッチ上から照らすコトは出来なくなったけれども、ソレでお仕舞いというワケじゃない。照らすコトや築くコトはピッチ・サイドからでも、フロントからでも出来るハズ。監督でも、GMでも社長でもね。その時を今から心待ちにしています。今まで、お疲れ様でした。本当にありがとうございました！前途に幸多からんコトを祈ってます。

(ぐん)

●個人的な話を少し。ここんどこ、毎年「冬のコミックマーケット」にサークル参加（本を売る側）している。売り場の机にギッフィーのぬいぐるみを置いて岐阜サポであることをアピールすると、浦和サポさんが何人かやってきて、必ず「柏木、元気ですか？」「柏木、ちゃんとサッカーやっていますか？」と訊いてくるのだ。ちょっと事情があって浦和を離れ、岐阜に移籍してきたのだけど、やはり浦和サポにとって「気になる存在」だったのだろう。

彼の実績を視ると、J1、J2、J3、天皇杯、リーグ杯、ACL、クラブW杯と「クラブで出た大会すべてで得点している」ように見える。スゴいことだ（逆に、代表でゴールがないのは意外だった）。

スゴいことなんだけど、やはり「J3・岐阜で1得点」というのは、明らかに『物足りない』。残り5試合、どこかでミドルぶっ放して相手ゴールの右上隅にビシッと叩き込んでほしいものです。労いや感謝は、最終戦号の『岐大通』で。

(吉田鑄造)